

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	0171000607		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム えべつ		
所在地	北海道江別市3条1丁目5番 (電話) 011-391-5171		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年11月5日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】 (20年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月 31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤17人 非常勤 0人 常勤換算17人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 1日 550円 暖房費(10~4月)1日200円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	300 円
	夕食	550 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおあさクリニック、野幌病院、おおあさメディカルビル歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

前庭に広い菜園を有し、暮らしやすく機能性の高い開放的な住環境のホームです。利用者は家事や畑作り、歌唱や絵画など、ゆったりとした生活の中で自らの力を発揮しながら、張りとしみのある暮らしをしています。管理者と職員は一人ひとりの思いやその共感に、またその人らしい暮らしの継続支援に努力されています。サービスの質向上への取り組みに熱心であり、系列医療機関の協力体制や日常的な健康管理も充実しています。「人とつながり」を理念に掲げ、家族や地域住民の関係にも思いを寄せた姿勢が視えます。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題は、地域密着型ホームとしての理念の策定、運営推進会議の開催、災害時対策が挙げられていましたが、何れも積極的に取り組み、改善または改善方向に進んでいます。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価に取り組み、自身の介護サービスを振り返り、点検を図っています。明確になった課題を検討し、具体的改善に向けて意欲的に取り組む姿勢が見られます。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、町内会長や包括支援センター職員、また毎回違う利用者や家族の参加を得て、率直な意見交換がなされ、地域の特性、ホームの現状と課題、家族の要望など互いに理解を深めつつ協議されています。それらの意見は、運営への反映や次回会議の継続議案にするなど活用し、関係者相互の交流、協力関係作りにより有効に作用しており、今後の展開が期待されます。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は家族とのコミュニケーションを大切にし、折に触れて利用者の日々の様子や健康状態などを知らせています。その際には家族の意見や要望などを話しやすい雰囲気配慮されています。運営法人として表出された苦情に関する対応システムが整備されており、運営に反映させています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設3年目を目前にして、地元住民との自然なお付き合いがされています。町内会に加入し、総会に出席、町内会行事である納涼会に参加し、住民に呼びかけてのホーム行事は恒例になっています。地域住民との協力や交流はもとより、地域貢献も担えるホーム運営に向けて努力をしています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人理念のほか、開設時に職員全員で構築したホーム独自の3項目の理念に加え、「人とのつながり」を大切にしたい項目を盛り込み、地域密着型サービスの具現化に向け、取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時のオリエンテーションでは理念の理解を求めています。また各ユニット毎に協議し「笑顔愛語」「和気笑笑」の解りやすい理念を掲げ、職員は常に意識しながら日々の介護サービスの実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域と利用者との橋渡しを行ない、交流に努めています。自治会総会に出席し、町内行事である納涼会に参加し、ホーム行事には地域住民に声を掛けて開催しています。また子供110番の家として地域活動の一端を担い始めてきています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に対しては、評価の意義を理解し職員全員が取り組み、日々の介護サービスの点検を図っています。明確になった課題を検討し、具体的改善に向けて意欲的に取り組む姿勢が見られます。また前回外部評価での懸案事項についても積極的な改善方向に努めてきています。		

江別市 グループホーム えべつ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は町内会長や包括センター職員のほか、毎回異なる利用者、家族の参加を促して、地域の特性やホーム理解を深めつつ協議し、運営への反映に努めています。過去に開催出来ずに来た経緯もありますが、現在は地域との関係性を重要視し、2ヵ月毎の定期開催に至っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とはホームの状況報告や介護事務、権利擁護に関する制度など、運営上の課題を相談し、連携を図っています。市主催の会議、研修にも参加しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時や、電話などで利用者の暮らしぶりや心身の状況報告、また異変が発生した場合は、その都度連絡し、結果報告を行なっています。3ヵ月に一度の個別の通信、全体の行事予定などのお知らせや金銭報告の送付など、利用者一人ひとりに応じた情報伝達に取り組んでいます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部、外部の苦情相談窓口を明記し、また苦情処理システムも整っています。職員は家族との協力、コミュニケーションを大切にされた対応を心掛けており、機会を捉えて、意見や要望などを話していただける関係作りを積極的に行なっています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係によるケアサービスの重要性を認識しており、運営法人内の異動は実施されていません。やむを得ない退職の場合であっても、両ユニット間での協力、職員間でのサポート体制などにより、利用者への影響を抑える配慮を行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成を重視し、その都度外部研修の情報案内や参加を促しています。内部研修は、新人研修やその後のフォローアップ研修、また職員の段階に応じた内容の研修を企画、実施し、ホーム全体でのスキルアップを目指しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム管理者交流会や運営法人内グループホーム管理者会議、研修会が開催されていますが、十分な情報交換や職員を含めた相互交流は今後の課題となっています。	○	ほかの業者との交流や連携は、ホームの質の確保に不可欠であるので、日程調整などを行ない、市内のほかの業者、また同系列グループホームとのネットワーク作りや実践的交流を持つ事を期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学時に茶話会を設け、利用者とともに過ごす時間を持ち、申し込みがあった時点で自宅訪問などを実施しています。家族の協力のもと、自宅・外泊を繰り返しての新生活への移行支援もあり、利用開始には配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とのふれあいや会話を大切にし、特に1対1で利用者に寄り添い傾聴することを大切に捉えています。一人ひとりに対して、全人格的理解を深め、家事や畑作業など、日常生活を一緒に過ごす中で、学ぶことも多く、共感し合う関係が築かれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から聞き取りし、全体の雰囲気から思いを汲み取り、理解を深めています。困難な場合は、利用者本位の検討を実施しています。センター方式を用いて情報の共有を行ない、その人らしく生活できるよう支援に繋がっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	暮らしぶりや心身の状況など生活シートからの情報を得て、毎月のユニット会議で職員間で検討を図っています。家族への説明、意向を確認し、また担当職員の気づきや視点も盛り込み、個別性の高い介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各ユニット毎に書式の工夫を行ない、介護計画に対しての日々の評価を実施し、3カ月の定期見直し時に活かしています。利用者の状態の変化には職員間で検討し、計画の修正など、状態に応じた見直しを実施しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や要望により、通院送迎や自宅や友人宅への送迎など、その時々々の状況に応じて、柔軟な対応に努めています。医療連携加算の指定を受けて、利用者の健康管理に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営法人関係の医療機関による月2回の往診診療のほか、利用者の希望の受診は、原則家族対応とされていますが、状況により家族と連携を取りながら支援しています。管理者が看護師であり、関係者との情報の共有を図りながら、適切な日常的健康管理が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実際に看取り支援に遭遇し、様々な視点からの検討課題が確認された状況にあります。ホームとして、「利用者の重度化や終末期のあり方に関する対応の指針」を作成し、現在、利用者、家族の意向の再確認を進めています。	○	ホームとして、重度化や看取りに関しての具体的対応を明確にし、段階に応じて利用者、家族の意向の確認を実施し、方針の統一化を図る事、また医療機関のさらなる協力要請の促進を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人らしいあり方や尊厳が保たれるよう、基本的な対応に配慮しています。個人情報利用についての同意を得て、法令に則った運営を実施しています。記録などの管理、取扱いに注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、利用者の状況を見ながら、声掛けを行ない無理強いすることなく、利用者のペースを大切に支援に努めています。利用者の希望に注目したケアサービスのさらなる工夫を検討していく予定です。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に関する一連の作業は、利用者一人ひとりの好みや得意事として役割を持っており、職員のサポートのもと、一緒に行なっています。職員は利用者と同じ食事を取りながら、楽しく落ち着いて食事が取れるよう気配りしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に、2、3回、午後の時間帯や希望があれば夜間入浴も支援しています。タイミングを計りながら無理強いせず、言葉掛けの工夫により、利用者の状況に応じた支援に努めています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は掃除や調理補助、畑作り、また俳句や似顔絵描き、歌唱など、様々な役割や楽しみ事を行ないながら過ごしています。職員は利用者一人ひとりの好きな事や出来ること、また持てる力を引き出し、張り合いや喜びのある生活になるよう、自立支援に取り組んでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見ながら、散歩や買物、畑作りや外気浴、また2ヵ月に1度の外出行事としてイチゴ狩り、外食会やホーム前庭での焼肉会など、戸外で楽しむ機会を支援しています。さらに柔軟な外出支援に取り組む方向にあります。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間の時間帯のみ施錠されており、ユニット入り口のセンサーにより、開閉の確認がなされています。利用者の外出傾向を把握して、見守りの徹底を心がけ、利用者の安全面に配慮しながら、自由な暮らしを支えています。		

江別市 グループホーム えべつ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設時に、一度実施されたのみで経過してきた消火訓練を消防署の協力で4月に、またホーム全体での避難訓練を10月に実施しています。災害時マニュアルの整備、非常通報装置の設置と防災対策を講じていますが、地域との協力体制作りは十分ではありません。	○	運営推進会議などを利用し、災害対策として地域住民との連携や協力体制の構築、また夜間や様々な災害時における実戦的訓練の積み重ねを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事の嗜好や食事量を把握し、水分摂取量のチェックを実施しています。味付けや栄養バランスに配慮した献立を作成し、糖尿食など、利用者の状態に応じた食事支援を行なっていますが、専門的観点が十分ではありません。	○	今後、利用者の身体状況の変化も考慮し、定期的に栄養士の専門的なアドバイスを得て、食事支援に活かすことを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリー構造で、各階に4つのトイレの設置など、利用者が生活しやすい住環境になっています。居間には畳敷きの小上がりがあり、広く開放的なスペースが確保され、また利用者の作品、職員による季節の装飾、毎日の献立表など、ホーム全体が居心地よく家庭的な温かな印象に工夫されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真や花々が施され、仏壇や机など、大切な品々や使い慣れた物品が持ち込まれています。壁一面に似顔絵が掲示された部屋、またベッド以外に床面に布団を敷いて寝ている方など、一人ひとりが心地よく安心して過ごせるよう配慮しています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。